

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
<p>法人創設より23年目となる2018年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、新たな一步を踏み出す年である。少子高齢化の進行や、政治・経済状況の変化など、福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、その時々ニーズに応じた事業展開・サービス提供をすることが求められている。そのためにも、柔軟な発想力と大胆な行動力を兼ね備え、オリμπアの理念の実践に貢献することができる人材を安定的に確保し、その育成に注力していきたい。</p> <p>また、我々の取り組みを多くの方に伝えるため、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。さらに、海外に目を向ければ、アジアの国々も急激な少子高齢化の道を歩み始めており、これまでの日本の経験やオリμπアの取り組みを伝えることにより、オリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」に貢献をしていく。このように目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応する為にも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことで、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。平坦な道のりではないが、常に初心を忘れることなく、新しいことにチャレンジし続けることができるオリμπアを目指す、新たな1年としたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。</p> <p>2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナム・シンガポールなどのアジアの国々との連携を密にし、世界の福祉の情勢の分析および情報発信を行う。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。</p>			

施設	特別養護老人ホーム オリμπピア	報告者	施設長 落 昌之
事業目標	1. オリμπピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材の確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す。		
概要			
<p>平成30年度は医療・介護報酬の同時改定であり、0.54の%プラス改定となったが、通所介護事業については実質マイナス改定となっており特養、居宅等の事業は微増に止まった。プラス改定でも収入面では厳しい状況であり、利用定員枠の確保をしっかりと行っていくことで収益の確保に努めていく。通所介護に関してはサービス提供時間の細分化により、減収となる。減収分については新たな加算が創設される事から、加算が算定できる体制を整えて行き減収分の補填を行う。また、経費に関しては送迎の業務委託分の影響が大きく送迎員の確保を行い、経費削減に努める。中央全体で積極的に加算算定等について検討していき収益の確保に努めると共に少しでも経費の削減を行い安定した財政基盤の確立を図る。</p>			
事業計画			
<p>1. オリμπピアの理念を活かしたサービス提供: 利用者の「その人らしい生活」を大切にして「有する能力」に応じた生活を送ることができるよう支援を行っていく。私たちスタッフは利用者の「尊厳」を大切にしていくために、お一人おひとりの表情や体調の変化等に目を向けていき、スタッフが接する中で「その人なり」を大切にします。利用者の個々のニーズに柔軟に対応できるように、多職種が連携できる体制を整えて行く事で、声に出ない隠れたニーズにも対応しながら、利用者の満足度を高めていきます。また、利用者の有する能力を最大限に活かすことができるように「自己選択」を大切にし自主性が発揮できるような取り組みを行います。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 利用者の満足度を高め、質の高いサービスを提供するためには安定した財政基盤が必要です。そのためには、目標の利用率を達成することが経営基盤の強化、地域社会資源の活用に繋がり、喜んで利用して頂いている事業所としての評価にもなります。拠点には通所介護、居宅介護支援、あんしんすこやかセンター、長期入所、短期入所とがありそれぞれの事業所が持てる力を最大限に発揮し、各事業所が立てた年度目標を達成する事で安定した財政基盤の確立を図ります。予算執行に関しては適切な予算管理に基づき、適正な人員配置や費用支出等を資金計画に沿って効率的に行います。但し、不必要な支出や業務の省力化を図って行き、無駄や重複事項の削減を図り生産性を高めます。また、情報公開等を積極的にを行い事業運営の透明性の確保に努めていきます。</p> <p>3. 人材の確保: 人材を確保するためには「魅力のある職場作り」を進めて行くことが大切です。常に質の高いサービス提供をさせて頂くために、利用者数に応じて人材を確保する必要があります。全てのスタッフが目標を持ち実践していく事で個々のスキルアップに努める。そのためには福祉職に必要な資格取得についての支援を行い、キャリアアップ制度等を活用しスタッフの意欲を向上させていき魅力のある職場作りを目指していきます。</p> <p>4. 地位のニーズに応えられる施設作りを目指す。: あんしんすこやかセンターや居宅又はデイサービス等の居宅系サービスがあり、地域の中で何に困っているかなど、地域の方々の潜在的なニーズを掘り起こし、介護保険制度の狭間にある方達等への支援、地域のニーズにきめ細かく柔軟に対応を行っていきたい。</p> <p>各種団体が開催する会議や研修会はもとより、地域の行事等にも積極的に参加する事で、地域との係わりを深く持ち、開かれた施設作りを目指すことで社会福祉法人として社会貢献に努める。</p>			

事業計画

2018年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	落 昌之
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 健全な施設運営 4. 専門性の高い人材育成と人材確保				
事業計画					
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:入所者、短期利用者様へお一人おひとりが望む生活を送って頂けるよう、「その人の持つ能力」に合わせた適切なサービス計画を策定して、楽しみに満ちた尊厳のある生活を送って頂けるよう支援して行く。</p> <p>2. 財政基盤の確立:安定した収益を確保するために、特養入居者の定員50名を確保し安定した収益の確保を図る。そのためには入退所業務を速やかに行い、空きがない状況を確実にしていく体制を整えると共に、入所者の心身の状況を常に把握し、入退院にも迅速に対応する。短期入所については、定員が16名と増える事から速やかに定員に達する事ができるよう、職員の体制及び利用者の確保に努める。</p> <p>3. 健全な施設運営・4. 専門性の高い人材育成と人材確保:健全な施設運営を行うには、老人福祉法、介護保険法の法令根拠に基づきスタッフの指導や研修等を積極的に行っていく。スタッフ一人ひとりが利用者処遇に関して、高い意識を持つことで利用者の生活を尊び、「その人らしい」生活を送って頂く。人材の確保については、新卒採用や技能実習生の導入また、介福・社福等の実習生を増やし専門性の高い人材を確保する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者数7,630人(29.8人/日)を目指す 2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める 3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる				
事業計画					
<p>1. 年間利用者数7,630人(29.8人/日)を目指す:昨年度の実績より更に0.1人アップの数字を設定。年間を通してコンスタントに高い水準で営業する。利用者様の満足度アップに向けて各種イベントにも力を入れ、新規利用者も積極的に受け入れていく。</p> <p>2. 人員を確保し、質の高いサービス提供に努める:人員を確保することにより、きめ細やかなサービスを展開する。確保方法もこれまでと違う新しい媒体や近隣住民への直接交渉、学校への訪問、地域の民生委員等を通じて呼びかける等、幅広い形で実施する。また、その活動を通じて地域との繋がりを深めていく。また、人員体制を安定させ、営業活動にも着手し、新規利用者獲得に動く。</p> <p>3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる:お一人おひとりとの関係を深め、その周りにおられるご家族様、ケアマネジャーや他職種の方とも連絡を密に持ち、オリンピアへの信頼度や期待感を向上させていく。そこからデイサービスだけでなく、オリンピア他部署のご利用にも繋がる様に働きかけていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピア	部門	中央居宅	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1,120件、要支援件数年間160件を目標とする。新規利用者を獲得する事で収入の増加を図る。また、特定事業所加算を取るようにし、収入を増やす。					
2. 質の高い居宅介護支援:利用者の自宅を訪問し、状況把握、モニタリングを行う。住み慣れた地域で在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守る。介護保険外の地域支援サービスも組み入れていく。					
3. 地域、他事業所との連携:研修などに参加し、あんしんすこやかセンターや他事業所と連携を図り、困難事例も対応できるようにする。					
4. 介護支援専門員の資質向上:研修に参加し、情報収集を行い、利用者の自立支援の観点に立った支援が行えるようにする。					
5. 認定調査員の資質向上:e-ラーニングの活用や認定調査の研修に参加し、資質向上を図る。また、書類の取扱に注意する。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピア	部門	あんしんすこやかセンター	報告者	太田直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談のできる窓口として認知・評価される。 2. 高齢者と地域をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する。				
事業計画					
1. 積極的な地域行事への参加、各圏域民児協定例会や高齢者対象事業への支援、圏域内各種事業所への訪問と、高齢者や介護に関する資料配付や情報提供を継続し、センターの認知度を広げる。					
2. 地域ケア会議を継続開催し、高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために、地域の困りごと等の解決方法を話し合うことで、関係者間のネットワークを広げ、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。 認知症の方のケアに関して、認知症サポーター養成講座の開催や認知症サポーター店の新規開拓、声掛け訓練の実施などを通じて、地域で認知症理解が進み、ケアの担い手が増えるように支援する。					
3. 民生委員や老人会、婦人会など、高齢者に関わる人的資源の新たな発掘や、ネットワークづくりを推進する。					
4. これらのことが実施できるように職員の資質向上とコミュニケーション能力の向上など、人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や専門知識の習得を、研修受講を通して努める。					
5. 圏域内で健康寿命増進やフレイル予防に取り組むプログラムを支援する。					
6. 虐待防止や後見人制度について理解や啓発を圏域内で推進する。					

社会福祉法人光朔会

施設	グループホーム オリμπピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 地域の認知症ケアの拠点としての地域交流 3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		
概要			
<p>16年目を迎えることになるオリμπピア灘は、地域の認知症ケアの拠点として根付きつつある。生活の主人公はご利用者であるというオリμπピア灘の理念を実践し、利用者ひとりひとりに「その人らしさ」を大切にしながら生活をしていただく。パーソンセンタードケアを基本とし、理念に基づいた質の高いケアをおこなっていくために、スタッフが多種多様な経験や力量にあった研修や勉強会を受講していき、ケアの実践において学びを反映させる。</p> <p>オリμπピア灘が置かれている法人内、灘区内の位置づけを自覚し、オリμπピア灘が認知症ケアの拠点であるという自覚と責任を持ち、法人内の各部門を力強く推進していく旗頭としての役割を担う。そして、法人から地域へと、オリμπピアで行われるケアが助けを必要とする全ての方に届けることを目標とする。</p>			
事業計画			
<p>1. 利用者の生活の質の向上:「生活の主人公」である利用者が、1日1日をその人らしく充実した生活が送れるようお手伝いをする。そのため、スタッフひとりひとりが原点である「オリμπピアの理念」「オリμπピアの3つの約束」を根拠としてお手伝いをさせていただく。日常から、利用者の希望や思いをくみ取り、グループホームに入居したからこそ、諦めてしまっていた夢や思いにチャレンジしていただける支援を行う。ご本人、ご家族と共に作り上げるケアプランをケアの軸として、できないではなく、どうすれば実現できるかを考え、日々の生活の充実を目指すとともに、夢を諦めない人生の充実を目指すチャレンジを続けていく。</p> <p>2. 地域の認知症ケアの拠点としての地域交流:オリμπピア灘の存在、目的などを地域に知っていただくため、地域交流を進めていく。具体的には、日々の散歩や買い物等の外出。地域で行われる行事への参加。オリμπピア灘、もしくは法人が行うイベントや講演会などの広報を行う。また、ホームへの見学を積極的に受けるだけでなく、地域からの介護相談、認知症への相談を積極的に受けていく。法人の資源も活用しながら、園児や就労作業所のメンバーなど、様々な方々が気軽に出入りできるホームを目指す。更に、実習生、ボランティア、見学者の受け入れを積極的に行い、地域への啓発活動に努める。</p> <p>3. 職員の資質向上:職員全員が「オリμπピア灘の理念・3つの約束」を理解し、ケアをする上での礎とし、日々理念に基づいたケアを実践する。新任、中堅とスタッフの経験や力量に合わせた研修や講演会に参加していき、利用者の日々の生活に学びが反映していくように支援する。公募制度、人事考課を適切に行い、職員ひとりひとりが自らのキャリアに希望を持ち、目標を持った成長を実現していく。特にグループホームの職員として、認知症ケアを理念と照らし合わせながら学び、「若手リーダー育成研修」など、多角的に学びを行う。人間として成長することで、深みのある利用者との関わりを持てる環境を整備していく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:まず、収入の安定を図ることで、事業運営を円滑にしていく。そのため、利用率を高い水準で維持していくために、利用者の体調変化に気づくことができる見守り体制を整え、早期の医療受診など関係機関との連携を密に行う。また、入居待機者を確保していくことで、空白の期間を減少し、高い稼働を実現させる。収支の安定を図りながらも、将来的な投資として人材雇用には支出をかけるなど、守りに入らずに攻めの投資をおこなっていくように運営を行う。</p>			

事業計画

2018年度

施設	オリンピック灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践し、入居者ひとりひとりの思いや意向をしっかりと受け止め、叶えていく。入居者、ご家族の希望や思いが反映されたケアプランを基盤として、入居したからこそできるチャレンジを実現していく。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:ケアワーカー、ユニットリーダー、管理者、ホーム長、看護師の報告・連絡・相談の体制を確実にいき、ユニットの仕組みを各スタッフが熟知する。職員毎に必要な研修受講、適切な公募制度と人事考課によりモチベーションの高い成長を遂げるように支援していく。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:オリンピック灘、法人が行う研修、講演会を地域へと広報していき、オリンピック灘が地域の認知症ケアの拠点であることを知らせていく。見学や介護、認知症の相談を積極的に受けていき、地域から頼れる存在となっていくことを目指す。</p> <p>4. 財政基盤の確立:年間稼働率98%を目指していく。収入を安定して確保することで支出とのバランスを図る。人材雇用など将来的な投資へは積極的に支出を考え、収支差として向上を目指す。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. サービスの質の向上:共用型のデイサービスという特徴を最大限に発揮し、グループホームのご入居者と共に活動することで、生活に必要な実践的な活動を行う。利用者ひとりひとりが活躍していけるように、アセスメントを行い、適切なケアプランを作成する。利用者の中から、グループホームへの入居を希望される場合には、入居者、スタッフとの馴染みの関係を築き、ご本人が安心できる馴染みの環境へ繋いでいく支援を行う。在宅サービスであることから、ご家族やケアマネジャーとの報告・連絡・相談を密に行い、利用日外の体調変化、申し送りが利用日の適切な対応に繋がるようにセンターから呼びかけていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年間利用2.0/日以上を目標とする。今年度は運営の抜本的な見直しを行う。これまで週7日の全曜日をサービス提供日としてきたが、今年度より月曜日から金曜日の週5日をサービス提供日と変更し変化していく制度や運営状況に合わせた体制へ変更していく。収支としての向上を第一に考えるとともに、共用型というサービスがオリンピック灘に与える数字には見えない部分での意義を重視する。適切な運営が、質の向上に繋がり、財政基盤としても安定する結果を目指す。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要			
<p>福祉を取り巻く状況が激変する中で、2018年度はオリンピア兵庫が今後の方向性を定める重要な年度となる。</p> <p>これまでの取り組みをふり返し、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。</p> <p>そのため、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という設立の理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけではなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるようにする。固定観念にとらわれることなく、常に新しいことへのチャレンジを続け、日本の福祉をリードする立場であり続けたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化：「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立：安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的実施することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成：オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>			

事業計画

2018年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1, ケア理念の遵守 2, 財政基盤の確立を図る 3, スタッフの資質向上				
事業計画					
1. ケア理念の遵守					
・“生活の主人公はご利用者本人”と言うことを常に意識し、パーソンセンタードケアの実践を行う。					
・ご入居者の個別理解に努め、ご本人の力を最大限に発揮していただけるお手伝いをする。					
2. 財政基盤の確立					
・年間稼働率98%を目指す。					
・Cafeの年間売り上げ240万円を目標とする。					
・旅行や新規企画を考え、保険外収入を充実させる。					
3. スタッフの資質向上					
・理念を熟知し、オリンピアのスタッフとしてふさわしい考え、行動をする。					
・外部研修に積極的に参加し、知識、技術の引き出しを増やす。					
・ケアのみならず、マナー、接遇に対しても学ぶ機会を持ち、内部、外部に対しても気持ちの良い環境をつくる。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. ショートステイの役割と今後 2. スタッフの資質向上 3. 地域協働				
事業計画					
1. ショートステイとして安定したケアを図る一年とし、選ばれるショートステイへ。オリンピアの理念と3つの約束という法人の羅針盤を理解しつつ部門として掲げる「温もりのあるショートステイ」をスタッフの共通認識にしケアを実践する。また、ひとつの部門としても十分に機能させながら同法人内の入所関連施設に対するパイプ役として全てのご利用者、介護負担に苦しむご家族の救いになるよう尽力する。2. また、従来通りレスパイトケアの役割を果たしながらご利用者の新たな一面を引き出すことでご家族の新たな喜びになるようスタッフの指導を過去に培ったシステマティックな方法を実践することでより明確に且つ指導する側、される側に安定した育成が行えるよう進めていく。またスタッフが安心して働ける労働環境について常に考えアップデートを行う。					
また、スタッフには介護だけではなく、あらゆる方面の研修に参加させることで知識、教養を身につけひとりの人間として魅力を伸ばしそれをベースにご利用者との協働する環境を作る。3. 世間が持つ高齢者施設のマイナスイメージを払拭する為にも地域の方々と一緒に楽しめるイベントの企画、実施を行う。足を運んで頂くことで認知症の方が明るく、希望を持って暮らしている場面をみてもらいノーマライゼーションの社会を目指す。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業計画					
1. 2018年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
区役所が主催する地域ケアネット活動を通じて地域ケア会議のメンバーとして活動を行う。					
本体事業を補強するための保険外事業を積極的に受入れ、実施する。					
2. 地域との密着					
地域密着型として運営推進会議等を通じて、地域の介護拠点としての地位を確立する。					
3. 人材育成の強化					
法人内外他事業所への派遣研修を通して知識、ケアのさらなる向上を目指す。					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う。					
4. 新たな保険外事業への挑戦					
初任者研修、サポーター養成研修等の経験を活かした保険外事業への挑戦を続ける。					
人材育成とも連携した形で新たな事業を活かせるものとする。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーによる支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、自らの生活イメージを取り戻して、自ら生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：定期的実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。また、所属するヘルパー一人ひとりの特性を活かし、より専門性の高いケアを提供出来る体制を整える。					
4. 保険外サービスの具体化：新総合事業開始が目前に迫っている。介護報酬に頼らない収入源の確保とともに、"オリンピックにしかできない"ケア・サービスの提供を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. オリンピアの理念の体現 5. 利用者、家族の尊重				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:2018年度収入予算を達成する。収支差額に留意し、法人の財政基盤の確立に貢献する。					
2. 地域、他事業所との連携強化:地域住民、ボランティア、商店、公的機関、病院、あんしんすこやかセンター、サービス事業所との顔の見える関係づくりを常に行い、連携を強化する。利用者が自宅での暮らしを安全に継続していけるように努力する。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。					
3. ケアマネジャーとしての資質向上:外部、内部を問わずに研修会、勉強会へ積極的に参加して、ケアマネジャーとしての資質向上に努める。介護保険制度の情報を意識して収集を行っていく。					
4. オリンピアの理念の実践:ケアマネジャーとしてかかわる中で利用者が生活の主人公であることを常に意識し実践していく。ご利用者一人ひとりがその人らしく在宅生活が送れるように支援を行っていく。					
5. 利用者、家族の尊重:利用者、家族の希望する生活が維持できるよう、毎月のアセスメントによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、多職種との連携を図り、柔軟な対応を行う。					

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 人材育成による資質の向上		
概要			
<p>オリンピア神戸西は、開設より9年目を迎える。2018年度は、今まで歩んできた道のりを振り返り、それを糧にした新たな一歩を踏み出す年にしていきたい。社会福祉法人光朔会オリンピアの一拠点として、地域に根付き、法人の理念に基づいたノーマライゼーションの実践、「その人らしく」光輝いて暮らすことが出来る社会の実現を目指し、時代の変化に合わせた事業展開・サービス提供にチャレンジしていく。その為に、柔軟な発想力と大胆な行動力、熱いハートを抱く人材育成に取り組んでいきたい。各部門の再編成に伴い、今までに培ってきた日常業務におけるノウハウを生かしつつ、それらを糧にした新たなものを創造し、新しいアイデアをアクションに移し、地域と共に歩み、成長していく。法人と地域の架け橋を担い、自分達に課せられたミッションを果たす1年としたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門、他にも専門職を地域に派遣し、高齢者料理教室や親子料理教室、地域の自治会との防災訓練や介護相談や健康相談等、高齢者総合福祉施設としての働きを一層充実させ、法人の活動を地域へ積極的に広め、浸透させていく。昨年度より取り組み始めた、神戸市西区ならではの、農業体験も継続していく。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 居宅介護支援での新規利用者・新天地の開拓、特養・多機能の稼働率95%以上の推移を目指し、新規プロジェクトが一日も早く軌道に乗れるよう、財政基盤の安定に繋げる、チャレンジを実践していく。昨年度、新規事業として県外事業で苦戦し、難しさ、苦渋の決断をさせられた学びを糧に、新しい繋がり、ネットワークをフルに生かした活動拠点を広げるアイデアを創意工夫していく。特に、小規模多機能を中心とした、在宅を支援する活動を広げていき、新たな実践を通して、事業収支差額16,000(千円)を目指していく。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ : 地域との協働・実践を生かし、法人の取り組みを積極的にPRしていく。そして、地域の方が今まで以上に当施設に気軽に入って来られる仕組みを作り、誰もが友人の家に遊びに来られるような場所にし、地域の高齢者ケアの拠点となると共に、喫茶が憩いの場となるような地域貢献を担って行きたい。法人との架け橋を生かし、総合的な相談窓口を担う事業も展開し、誰もが安心できる場を提供する新たな環境作りを創造していくことにもチャレンジしていきたい。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立: 利用者おひとりおひとりに対して、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。各部門間の連携により、いつまでも、「その人らしく」輝ける暮らしを支援していく。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる取り組みをする。世代を超えた意見交換の場や小規模を生かしたアクティブな活動、画一的ではない個別的なケアの実践をする。誰もが輝き、希望を見出す取り組みのチャレンジを継続し、その経験を積み重ねにより、ケアを充実、ボトムアップを目指し、地域密着での福祉の啓発活動を展開していく。</p> <p>5. 人材育成による資質の向上: 内部研修や外部研修に積極的に参加し、人材の育成を図ると共に、ケアの資質の向上に繋げていく。特に、光朔会オリンピアの総合的な福祉活動、横の繋がりを生かした学びの機会を積極的に取り入れていく年にしていきたい。そして、自分達の枠にとらわれず、勿論、介護屋で終わるのではなく、この目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応し、ムーブメントを起こせる、希望と期待の持てるワクワクする人材を育てる。</p>			

事業計画

2018年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:2015年度から登録定員が29名に増加した。ノーマライゼーションの理念に則り、一日の利用定員の範囲内で、少しでも多くの方を受け入れ、通い、泊まりのサービスだけでなく、訪問サービスにも力を入れ、利用者に合わせて支援し、自宅での生活の継続に努める。ご本人の要望だけでなく、ご家族の希望も取り入れ、安全安心な暮らしができるよう、スタッフはチーム一丸となって関わっていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:収入目標79,535千円。登録者数を29名確保し、法令遵守の上で、安定した収入の確保を目指す。各種加算の算定対象となるように、スタッフの確保、継続勤務に繋がる体制作りを行う。</p> <p>3. スタッフの確保と資質向上:スタッフが気持ち良く働けるような環境を整え、定着率を上げる。研修計画に基づき、内部・外部研修を通して、ケアの標準化及びスタッフの資質向上を目指す。リーダーを中心に、スタッフの個々の能力を見出し、スタッフ一人ひとりが活躍できる職場環境作りをしていく。</p> <p>4. 地域の拠点作り:地域の行事にスタッフだけでなく利用者も参加し、繋がりを深めていく。老若男女問わず、多くの地域の方々が訪れることができる拠点を目標し、開かれた相談窓口として地域に貢献していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 地域共生 3. 人材育成とスタッフ定着率向上を図る 4. 健全な財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. オリンピアの理念の遵守:オリンピックの理念を遵守し、入居者の尊厳を守ることで、入居者が日々の暮らしの中で自己選択・自己決定を行い「その人らしい」生活を送ることができる入居者主体のケアを行う。入居者、スタッフが一つのチームとして成長し続けることができる関係を構築する。</p> <p>2. 地域共生:地域の一員として、特別養護老人ホームが有する資源やノウハウを地域に還元し、地域住民の介護相談窓口としてのポジションを確立する。施設と地域、双方向の交流を行うことで「まちづくり」に貢献する。</p> <p>3. 人材育成とスタッフ定着率向上を図る:スタッフ各自がオリンピックの一員としての自覚を持ち、法人理念や3つの約束に基づいたケアを実行できる人材になれるよう支援を行う。研修、勉強会に参加できる機会を多く持つことでスタッフの成長に繋げる。仕事に対して誇りや責任、楽しみを持ってもらうことでスタッフの定着率向上を図る。</p> <p>4. 健全な財政基盤の確立:年間収入108,865千円、年間稼働率98.5%を目標とする。空床発生時にはショートステイを利用して頂き、空室を最小限に抑えられるよう迅速な対応を行う。また、入居申込者の確保に尽力する。安定した収入とメリハリのある支出を心懸け、健全な運営を目指す。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う。 2. 居宅支援を他部門と連携し行う。 3. 財政の安定。 4. 人材育成と資質の向上。				
事業計画					
1. 地域の相談窓口としての役割を担う。: 地域住民との繋がりを構築し、様々な相談に対し迅速に対応し、その人らしい生活、暮らしが送れるよう質の高い支援を行います。神戸西居宅との合併に伴い相談窓口としての位置づけを確立します。					
2. 在宅支援と他部署との連携: 各地区の包括支援センターをはじめ、各医療機関・地域ボランティア等の関係各所との関わりを持ち、法人内の横の繋がりを活かしながら、お困りの方の支援をしていきます。					
3. 財政の安定: 常勤3名の職員配置で体制を整え、業務内容を充実させ、安定した稼働率を実現し、収入を確保出来る様にします。					
4. 人材の育成と資質の向上: 積極的に研修に参加し、居宅介護支援専門員として質の向上を目指し、法人の理念である「ノーマライゼーション」「センターパーソンドケア」に基づいた支援を実践していきます。 適切な判断、行動が出来る人材として職員同士が協調し情報の共有をしながら、オリンピックにふさわしい人材の育成と組織作りをしていきます。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック大阪(仮称)	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1. 新天地の開拓、新規事業として地域に入っていく 2. 財政基盤の確立 3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う。				
事業計画					
1. 新天地の開拓、新規事業として地域に入っていく: 大阪府に新たな事業所を置き、新しい可能性に繋げるべく、新天地を開拓していきたい。特に、県外事業としては、二度目になり、呉の事業所を一旦休止にしている現在としては、呉での学びを糧にしての再チャレンジになる。事業所候補地としては、急浮上ではあるものの、以前より、繋がりがあり、また、隣接都市でもある大阪府にて、お困りの高齢者の支援のために、法人との架け橋を担いながら、社会貢献できる取り組みを積極的に進めていきたい。近隣の自治会関係者へ、事業説明会を行ったり、地域を如何に支援していくかという展望の話をする機会も増やしていき、地域に展開する機会を増やしていきたい。					
2. 財政基盤の確立: 初めての他府県での事業展開・事業拡大に向けて、現地と如何に繋がり、現地での人材確保、居宅介護支援事業所開始と、それを支えるPR活動、広報活動に力を注ぎ、健全運営を目指していく。 年度内の最終目標利用者数は、要介護者20名 要支援者8名のケアプラン立案とする。3. 地域のコミュニティ支援を担う、法人との架け橋になる活動を行う: 地域の高齢化とコミュニティ活動の不足というのが現状にあり、法人との架け橋を担いながら、新しいチャレンジ、文化活動等を通して、地域の活性化の一助を担い、成長する。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底 2. 認定こども園教育・保育の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携		
概要	<p>2018年度は幼保連携型認定こども園に移行し3年目となる。保育認定ではない1号認定として入園する子どもたちが15名となり、1号認定子どもの定員に達する。これからも地域の子育て世帯に選ばれる認定こども園として、子育て世帯に積極的に情報発信し、関わっていききたい。また、灘区は待機児童の多い地域であり、当園は絶えず保育認定子どもを定員の120%を預かる園として地域に貢献している。2018年度も地域の子育て支援の拠点として、年々多様化する子育てニーズに敏感に反応し、支援していきたい。そして、一人一人の子どもたちがその子らしく、心も身体も安定して過ごせる認定こども園となるよう、一人の子どもに全ての職員が関わっていく姿勢を大切に、教育・保育にあたっていきたいと思う。</p>		
事業計画	<p>1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底 : 子どもたちが自分らしく輝き生きる力を育む教育・保育とは何か、それを実践するためにはどうすればよいか、イエス・キリストの愛と奉仕の精神をもって行動できているか、全職員で考え行動できるようにしていく。一人一人の子どもが中心にあり、より良い成長を支える良き職員集団として、理解・協力・切磋琢磨できる関係性を大切にする。</p> <p>2. 認定こども園教育・保育の充実 : 一人一人の情緒の安定(養護)を基本とし、そこに発達に応じた子どもの興味・関心を満足させる活動(教育)が積み重なっていくようにする。子どもが「やってみたい!」と感じる魅力的な環境作り、活動が発展していくための適切な援助、過程を大切にする行事を計画・実践する。また、都こども園の活動を広く発信し、保護者・地域の方々への理解・協力が得られるようにする。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実 : 保育園・小規模保育園・認定こども園等が増え、一時保育利用児は年々減少傾向にある。年間延べ約700人の一時保育利用児を受け入れる実績をもとに、今年度も就労・緊急・子育て不安などさまざまなケースに迅速に対応していく。また、未就園児に向けたプログラムは地域子育て世帯に定着し、大変好評を得ている。プログラムの充実をはかり、すべての子どもに開かれたこども園として、利用に結び付くような活動を展開していく。</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上 : 2018年4月に改定された幼保連携型認定こども園教育・保育要領をていねいに読み込む作業を全職員でおこなっていく。また、経験年数に応じた資質向上を図るため、キャリアアップの体制をつくとともに、キャリアアップの研修会に積極的に参加する。職員一人一人が自分に課された課題を明確にし、取り組んでいけるようにしたい。</p> <p>5. 関係団体との連携 : 聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸市私立保育園連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。養成校との連携を深め、積極的に実習生の受け入れ、指導をおこなう。次世代育成プログラムとして地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを受け入れる。また、子どもの成長の連続性を確保するため、小学校との接続、スタートカリキュラムを実践する。そして、地域にある園として、地域の皆さまのご理解ご協力を感謝し、地域行事への参加、園行事へのお誘い、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p>		

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 中久木 康弘
事業目標	1. 健全財政の安定化 2.. 保育所保育指針改定への対応 3. 一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実		
概要			
<p>法人基本方針「イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、その人らしく光り輝いて暮らすことができる社会を実現する。」というに則り、神様によって創造されたかけがいのない存在として一人ひとりの子どもを受け容れます。</p> <p>「今日一日を精一杯生き、心から楽しむ」ことのでき、こどもたちが、家庭的な雰囲気の中で、安心して生活ができるように、担当制保育を行い、日々の生活の中で、こどもたちが、自分で主体的に選択、判断し、責任をもって遊ぶことができる環境を提供します。公益法人として、地域における子育て支援のため、子育て中の保護者へのサポートをより充実させ、社会的役割を果たす。</p>			
事業計画			
<p>1. 健全財政の安定化</p> <p>過去3年とも財政面では安定し、予算を上回る収支差を出すことができた。2018年度も過去3年の蓄積したデータをもとに安定的した予算執行を行う。</p> <p>2. 保育所保育指針改定への対応</p> <p>1) 乳児・幼児教育の充実:卒園時まで育てほしい姿を意識した保育内容や保育の計画・評価の在り方を充実。主体的な遊びを中心とした保育。</p> <p>2) 子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の見直し:子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえ、食育の推進、安全な保育環境の確保。</p> <p>3) 保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援:保護者と連携して「子どもの育ち」を支えるという視点を持って、子どもの育ちを保護者とともに喜び合うことを重視する。</p> <p>4) 職員の資質・専門性の向上:職員の資質・専門性の向上について、保育士のキャリアパスの明確化を見据えた研修機会の充実。</p> <p>3. 一人ひとりを大切にする保育のさらなる充実</p> <p>子どもが安心して過ごせるように、「流れる日課」と担当制を充実させ、一人ひとりの子どもの行為や生活全体がスムーズに流れ、不必要に待つ時間や中断されることのない日課の作成。日課を一斉に行うとなく、子ども一人ひとりの生体リズムや生活リズムを考慮し、一人ひとりに合わせ担当グループを作り、それをクラス全体の日課に取り込み、それぞれが円滑な連携を図り進める。</p>			

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
概要			
<p>オリンピアの理念を軸として利用者ひとりひとりの居場所となる場の提供をし、児童館の担う役割をしっかりと果たしていく。親子プログラムを通して、母親の居場所づくりと仲間づくりの拠点となるよう配慮し、継続利用に繋がるようにする。放課後児童クラブにおいては、児童館と六甲学童保育コーナーそれぞれの環境的特性を活かしていく。また、児童館では高学年児童と19時延長利用増加のため、より良い環境づくりをし、保護者のニーズに応えていく。更に一般来館児童と放課後児童クラブの児童の交流を図るべく、月行事のプログラムの充実を図る。そして、保護者との信頼関係がより強固なものとなるよう努力する。コミュニティ事業を通して地域との連携を大切にしていく。新たな職員体制となるため、職員全体の根本的意識向上を図り、揺るぎのない運営ができるように努力していく。</p>			
事業計画			
1. 児童の健全育成			
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや行事を通して異年齢児や地域の方との交流を図り、その中で集団モラルを学べるように支援する。 ・安全を第一に、子どもたちの居場所づくりとして、積極的に職員が遊びに関わり個別的・集団的に支援していく。 <p>また、「生きる力」が育つようにひとりひとりを尊重した見守りをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子での参加行事や、地域の方との交流行事、季節行事、月行事など内容の充実を図り、楽しさを提供する。 			
2. 子育てと家庭の支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援、母親の居場所づくり、仲間づくりの拠点となるように下記の事業を実施する。 <p>*すこやかクラブ*キッズクラブ*なかよしひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママのリフレッシュタイム・子育てママのティータイム・ママのホットタイム)*母親対象講座*親と子のふれあい講座*子育てコミュニティ育成事業</p>			
3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ:学童)			
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で集団生活の規律を守り、一人一人が協力・寛容・自立という事を理解できるよう支援し、児童の健全な育成を図る。また、高学年児童が学習に集中できる環境作りをし、自学自習力がつくよう配慮する。 ・お誕生日会やお楽しみ会、児童館行事等への参加を通して、子どもの心と体の健康を図る。 ・長時間学童で過ごす子どもたちの心のよりどころとなる支援とともに保護者が安心できるように配慮していく。 			
4. 地域への貢献			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が足を運びやすい場の提供に一層努めると共に、子育て支援、家庭支援に繋がる地域社会を目指し、異世代間で楽しめるプログラム(コミュニティ事業)を年間を通して実施する。 			
5. 職員の資質の向上			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人光朔会オリンピアの一員であることの誇りを持ち、児童館職員としての自覚と責任をもって行動する。 ・オリンピアの理念に則り、利用者ひとりひとりに対して個を尊重した対応をしていく。 ・職員ひとりひとりのもてる力を最大限に発揮することで、職員の自信に繋がるよう配慮し、更なる成長を図る。 <p>また、職員同士の共通理解を図ると共に、ともに成長しようという環境づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員研修や合同行事から学んだことを活かしていく。活動の振り返りを積極的に行い、次に繋げるようにする。 			

施設	オリンピア岩屋・オリンピア住吉・オリンピア長峰	報告者	センター長 大地あけみ
事業目標	1. 施設外就労支援 2. 共同生活援助(サテライト制度の導入) 3. 生活介護の開所		
概要			
<p>2018年はこれまでの維持していく年と違い、大きく飛躍する年となる。利用者ひとりひとりを主体とした個別支援は昨年と同様に手厚い支援を心掛ける。利用者の声にも少しずつ主張がみられ、それに応えるべく信頼と安心を築いていかなければならない。就労継続支援B型として日中活動の支援を強化していく。就労に関する支援だけでは、到底満足できるものではなく、オリンピアの理念に沿った福祉に近づけるために求められているものをいち早く察知し、的確に応えていく。そのためにも、作業支援のほかに生活面はともかくその人が楽しいと思える芸術面やスポーツの活動も増やし、いろんな角度からサポートしていく。</p>			
事業計画			
<p>1. 施設外就労の実施により、利用者の将来への自信や希望に繋がる。</p> <p>これまでの能力の高い低いに関わらず、同じ環境で格差をつけない支援にあたってきた。互いを思いやる心は育まれてきたが、能力の高い人はいつの間にか「なんで私ばかり・・・」「同じ工賃なのに・・・」と不満の声もあがりはじめた。やる気のある利用者のモチベーションを下げずに公平さを保つためには、難易度の高い作業を施設外就労を通して支援することにする。工賃格差をつけることによって、目標が持てたり自信となって社会に踏み出す大きな一歩となるよう支援する。また、就業率を上げることによって、家族からの安心や信頼につながり、自立への道が開けていく。</p> <p>2. 共同生活援助(グループホーム)への入居希望者は数多く、家族の皆さんが口をそろえて言われるのが「私たちが死んだらどうなるんだろう。先のことが心配」サテライト制度は共同生活援助の仕組みを使って最長3年間一人暮らしに近い状態で支援をするものである。一人一人の主体性を考慮しその人にあった生活スタイルが築けるものと思われる。利用者や家族は、一人暮らしの自立に対し期待と不安の両方を併せ持っている。支援者が地域住民との懸け橋となり、よりよい社会生活が送れるよう支援する。</p> <p>3. 生活介護の需要は多く、自分にあつた事業所が選べるほど数多くないのが現状である。「利用させてもらっているから我慢しよう。他に行くとところがないし・・・」そんな声を耳にする。このように、家族も当事者も半ば諦めていたりするが、常に新しい事業所、新しい支援に敏感である。当たり前の日常生活を送るために、支援者である私たちが自己表現できる場所を設け耳を傾けること、いろんな体験や経験を通して可能性を見出すことだと考える。オリンピア岩屋、オリンピア住吉には、生活介護にて環境を整え居場所を提供したほうが良いと思われる利用者もいる。どこに行きたいか、どこで過ごしたいか、選択肢が多くあれば尚良い。多くの事業所は、室内での見守り、時々散歩をするなど限られたプログラムが多い。オリンピアは、心身ともに自由であり、また健康を維持するための運動や思い思いに表現ができる芸術面に力を入れていく。</p>			

事業計画

2018年度

施設	オリンピア岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	大地 あけみ
事業目標	1. 施設外就労支援 2. 職員の質の向上 3. 地域交流による障害者支援の啓発				
事業計画					
<p>1. 当事業所では定員20名を超える利用者数となっている。また、4月からは青陽東養護学校の卒業生3名の受入れが確定しており、現状から事業所内での作業場確保は非常に困難である。利用者の中には、就労継続支援A型や就労移行支援、また一般での就労を希望する人も増えてきた。その人の希望に応じた生き方、ステップアップをしたいという前向きな姿勢を社会につなぐため、能力に応じた作業の提供をしていく必要がある。他事業所において、作業支援を受けることによって、社会性を身に付けていく。</p> <p>2. 認知症に限らず「パーソンセンタードケア」の考え方は障害者にとっても共感する所がある。職員ひとりひとりがこの知識を学び、オリンピアの理念に基づいた支援に繋げる。職員皆が同じ方向を向き、ぶれない支援、チームワークが高まることにより、利用者主体の支援の強化につながる。また、知識だけでなく心も成長することになる。</p> <p>3. 2018年1月より敏馬神社の清掃のボランティアを開始。地域の方々と挨拶を交わす機会も増え、利用者の社会性も徐々に身につくにつつある。岩屋近くにおいて地域の方より空き地の提供があり、地域の方の支援により菜園もしくは草花を育て、楽しみながら学ぶ機会を作る。植物の成長を身近で感じ、自らの役割や責任感を育てる。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピア住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	尾上 忠志
事業目標	1. 利用者支援の向上 2. 新規メンバーの獲得 3. 法人内連携による作業強化 4. 地域のネットワーク構築				
事業計画					
<p>1. 利用者支援の向上: 全利用者の個別支援計画を作成し、必要であれば本人だけでなく家族や保護者ともカンファレンスの場を持つ。その計画を職員間で共有し、1人ひとりにあった支援が出来るようにする。</p> <p>2. 新規メンバーの獲得: 2018年3月現在定員20名に対し17名の登録となっている。しごとサポートや支援センターへ定期的に連絡や訪問を行ったり、既存のメンバーへ紹介を募ったりして今年度中に定員に達することが出来るようにする。</p> <p>3. 法人内連携による作業強化: 2017年度より法人内3施設で清掃活動を開始した。今年度も継続するとともにメンバーが就労へ向かっていけるよう支援していく。また農作業や販売会なども行い、作業強化により各施設のメンバー、利用者、スタッフが交流出来るようにする。</p> <p>4. 地域のネットワーク構築: 東灘区のしごと部会には毎月参加し、地域の動向を把握する機会とする。2017年度より呉田(ごでん)ネットワークに参加し、住吉南部あんしんすこやかセンターと共同で地域交流会や会議に出席している。事業所前販売を2017年12月より開始し、地域交流と増収を継続していくようにしていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア長峰	部門	障害者共同生活援助	報告者	大地 あけみ
事業目標	1. サテライト制度の導入 2. 短期体験利用の開始 3. 職員新体制の構築				
事業計画					
<p>1. 自立を強いられた入居希望者に入居前での体験してもらったが、他利用者とのコミュニケーションがうまくいかず断念することになった。入居希望者の思いと能力次第では、一人暮らしも可能性があることからサテライト制度を導入する。オリンピア岩屋の2階の1室を借りることとし、一人の障害者が地域社会との関わりを持つことによって、障害者の理解及び支援の啓発に繋がる。障害者も健常者も垣根を超えて助け合いながら生活を送ることのできる地域となる。</p> <p>2. これまでになかった体験部屋を設ける。より多くの障害者に、ショートステイとは違った自立訓練を体験してもらい、少しでも将来の不安を取り除く支援をしていく。また、家族にとっても体験を利用することによって、心の準備、安心感が持てるようサポートする。</p> <p>3. 夜間支援やサテライト制度の導入により、これまで以上に職員間の緻密な連携、職員同士の思いやりや信頼関係が必要とされる。日中活動がなされていない分、情報交換、研修や親睦を通して意見交換を行いより良い支援に繋がるよう努めることとする。</p>					

施設	サービス付き高齢者向け住宅 オリμπピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリμπピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す		
概要			
<p>サービス付き高齢者向け住宅の入居条件としては60歳以上の方で非該当の方から要介護・認知症の方等、これまで自宅で不安を抱えて生活を送って来られた方々に対して、生活の質はこれまで通りの例外的スタイルを続けて頂き、利用者の方が不安な部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援サービス及び食事や家事等の支援により、その人らしい生活を送って頂く。外出同行サービスや趣味等の活動に参加して頂き、豊かな時間と安心した暮らしを提供する。訪問介護事業所・通所介護事業所を併設し、オリμπピアで培った質の高いサービスを住宅部門は基より、地域の方々へも提供していく。また、デイルームの空き時間を利用して地域の方々と交流を図り、地域基盤を確立していきながら、入居待機者及びデイサービス利用者を獲得する。</p>			
事業計画			
<p>1. オリμπピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらないライフスタイルを継続していける様に入居者お一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしのお手伝いをする。入居者の皆様に「鶴甲を選んで良かった」と思って頂ける様に安心出来る生活環境を提供する。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の皆様の「安心してこれまで通りの暮らしを続けたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。常時利用者の方に生活して頂ける状態を維持していくために、入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居希望の待機者獲得に努める。収支の状況も的確に把握していき、収入と支出のバランスを取っていくことで、コストを意識し収益の確保を目指す。</p> <p>3. 各種講演会やイベント開催:各種講演会やイベント開催を定期的に行い、近隣地域の方へ様々な情報を鶴甲から発信することで、入居希望の待機者及びデイサービス・ヘルパー利用者の獲得に繋げる。</p> <p>4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者の方に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配る必要がある。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係設備・機器の整備点検を十分に行い、年2回の避難防災訓練を実施し、消防署・地域の協力を得て利用者の方の安全対策に努める。非常災害時においても最大限に利用者の方の安全を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担っていく。</p>			

事業計画

2018年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				
事業計画					
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式を継続していただける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしを支援する。入居者の皆様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様、安心出来る生活環境を提供していく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「安心してこれまでの暮らしを続けていきたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居待機者の獲得に努めます。収支の状況も的確に把握し、収益の確保を目指す。</p> <p>3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者の方に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配り、危険箇所等が無い様に建物の維持管理を行っていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2018年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ヘルパーステーション	報告者	下地 正樹
事業目標	1. オリンピアのケアの追求。 2. 人財確保育成。 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化。				
事業計画					
<p>1, オリンピアのケアの追求:利用者様お一人お一人の人生観にあった、QOLの向上目指すためのケアを進め利用者様の目線で、その人らしい尊厳を持った暮らしを続けられるようなケアを実践する。 「鶴甲に頼めば何とかしてくれる」の期待を裏切らない。</p> <p>2, 人財確保育成:利用者様の人数が サービス提供責任者限度に近づいており、次の展開を見据えた人財の確保。どんなに困難なケアのご要望があっても、挑戦できるスキルを持った人財を確保すると共に、内部での教育を実施しチームケアの質の同質化を進め、誰でも一定レベルのケアが出来る様にする。</p> <p>3, 財政基盤の確立:昨年度に立てた利用者様の人数から、内容を充実したケアを求めていく、質の向上ケアの多角化を進める体制作りをし、拡大を図りたい。</p> <p>4, 広報活動:灘区・東灘区の あんしんすこやかセンター・居宅介護支援事業所へも認知度が上がってきたと実感しておりますが、ご要望に応えられていないことが多く有るので、現地現場主義で認知度を向上させる。オリンピックのファンが、増加するような活動をPRしより多くの共感を得るようにする。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	富原 実治
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 財政基盤の確立					
利用者数を上限数にすることを目標として、あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所の訪問を続け、新規利用者獲得に繋げる。好評である音楽療法を継続し、なおかつ定期的にイベントを行う等、少しでも多くのアピール方法を思案し実行することで収益を上げていく。					
2. サービスの質の向上					
スタッフひとりひとりがオリンピアの理念をしっかりと理解及び把握をして、それに基づき利用者様のニーズにお応えできる体制を常に整えておくよう努力する。小規模の特性を活かし個別対応を意識し実施する。					
3. 人材の確保・育成					
利用者様の思いをいつでも受け入れられる体制をとり、利用者様が望まれるであろうことをスタッフ全員が進んで行えるような質の高いサービスを提供できる人材育成を図り、基盤をしっかりと整える。					

施設	グループホーム オリμπピア篠原	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成		
概要			
<p>オリμπピア篠原は開所4年目を迎え、地域に密着した「認知症ケア」の拠点として、更に力強く推進する1年となる。住み慣れた地域で生活し、地域の行事に参加し、継続的な社会資源との関わりを大事にすることで、地域との関係は強まっている。地域でお困りの方々を支援すべく、相談の窓口としての機能強化も進めていく。新しいチャレンジを続けるために、安定した収入の確保、人材の雇用・育成が必要となってくる。今年度は介護報酬改定に伴い、介護保険制度を取り巻く環境は更に厳しくなっていく見込みだが、オリμπピア篠原が地域社会から必要とされる存在であり続けることで、ノーマライゼーションを実現していく拠点となる。また、スタッフの自発的な研修参加だけでなく、必要とされる研修を全スタッフが受講し、個々のスキルアップを図っていく。</p>			
事業計画			
<p>1. 「認知症ケア」の確立: パーソンセンタードケアを基本とした、根拠のあるケアを実践していく。日々の学びに終わらず、認知症ケアの研修や勉強会をオリμπピア篠原で開催する。スタッフひとりひとりが理念に基づいたケアを実践していくと同時に、指導していくことができるスタッフを育成することを目標としていく。そのために、今一度オリμπピアの理念を学び、ノーマライゼーションの実現という目標を見据えた認知症ケア、個別ケアを理解、実践していくことで、地域の認知症ケアの拠点となる。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 地域の行事へ継続的に参加していく。地域住民からの入居相談で実際に入居されたケースもある。引き続き、地域での高齢者介護・認知症ケアの相談窓口となっていく。また、オリμπピア篠原、更には光朔会の存在を多くの方に知っていただくために、地域の居宅介護支援室や社会資源となる場所に定期的に広報を兼ねて訪問する。また、町内会や自治会などとの結びつきを強くし、入居者様が地域をきっかけとした幅広い活動に参加していける関係性を作る。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 今年度の介護報酬改定に対応していくことが必要であるが、安定した収入確保と適正な支出を運営することが重要であることは変わらない。入退院等による利用の空白は、毎年起こることを前提に、1年トータルで平均利用率98%台を確保する。また、空白期間を最小限にするため、複数の入居待機者を確保するため、広報活動、待機者への定期的な状況確認及び待機中の支援を行う。また、収入確保と同時に、支出に対しても人件費などの積極的な支出を除き、無駄を無くす取り組みを行っていく。また、保険外事業として、入居者様の旅行や外出を支援していく。入居者様の希望や夢を実現することができる体制を整え「これまで通りの生活を送るお手伝いをさせていただく」という理念に沿った取り組みを数多く広げていく。安定した施設運営を行うため、目的をしっかりと持った保険外事業を行い、入居者様の満足度向上と、収入の安定へと繋げていく。</p> <p>4. 人材の育成: 開所以来一緒に働いていた職員が異動等によりいなくなり、中堅職員と新人職員と2極化している。中核となっていく職員の育成と新入職員の育成を行い。特に中堅職員は新入職員を教えることにより、自分のスキルを見直す機会としたい。今後更なる成長をしていくための資格習得、研修の受講を法人内外で進めていくとともに、次の責任者となっていける人材の育成を念頭に置いた、オリμπピア篠原での研修の年間計画を立て、全スタッフの底上げを促していく。</p>			

施設	オリンピア篠原	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成				
事業計画					
<p>1. 「認知症ケア」の確立:入居者様お一人おひとりの生活歴やアセスメントから得た情報を元に、パーソンセンタードケアを基本とした個別ケアをさせていただく。グループホームとして、オリンピアの理念として、入居者様が主役である生活の場を確立する。基本に立ち返り、3つの約束を遵守し、「これまで通りの生活」を実現する。</p> <p>2. 地域密着の浸透:自治会、民生委員などの地域住民、福祉センターやあんしんすこやかセンターなどの社会資源と築いてきた関係を大事にし「入居者様が地域の行事や生活として出ていけること。」「オリンピア篠原から、認知症や福祉でお困りの方への支援をしていく拠点となること。」の2点を中心に、地域との関わりを深めていく。</p> <p>3. 財政基盤の確立:グループホームの特性を注視し、年間での利用率を安定させることを第一とする。早期の入退居へと繋げることで、各月の利用率低下を最小限のものとし、年平均稼働率98%台を目標値とし、維持できるように努める。人件費などの積極的な支出を除き、無駄な支出を極力抑えていき、収支差での向上を目指す。</p> <p>4. 人材の育成:一定の人員を揃えることで、スタッフ個々の負担を減らすとともに、今後中核になっていく職員の育成が必須であり、法人内外の研修、オリンピア篠原内の研修を計画立てて推進していく。</p>					